

梅雨の急な降雨に注意を!!



梅雨の時期を迎えるにあたり、河川・砂防工事だけではなく、道路・建築工事等においても、事前に現場内の資材や排水等の状況を確認し、下記の対策項目について十分注意して下さい。

また、近年、短時間に局所的に猛烈に降る雨(ゲリラ豪雨)が頻発しています。降雨時には気象情報等を収集し、早めの対策により、事故防止に努めましょう。

水害対策7箇条

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| ①排水対策を十分に | 降雨量が増えると排水設備の許容量を超える恐れがあります |
| ②穴ぼこ、段差を日々点検 | 降雨により、バイク等事故の原因になります。 |
| ③濡れた路面にご用心 | 濡れた覆工板で滑りやすくなります。 |
| ④緩んだ斜面は恐ろしい | 切土法面、盛土等は降雨で崩れやすくなります。 |
| ⑤機械の設置場所には注意 | 地盤の緩みで機械が転倒する危険があります。 |
| ⑥大雨の後には安全点検 | 地盤の緩み、崩落・陥没等思わぬ危険があります。 |
| ⑦点検巡視は複数で | 単独では、点検中に事故にあった場合、連絡が取れません。 |



水害対策案

- ① 日頃から排水設備が十分機能するように管理し、雨量に対して十分な能力を持った排水ポンプ等を設置する。
- ② 常時、舗装状況を点検するとともに、降雨時は、点検巡視の頻度を増やす。
- ③ 仮歩道であっても良好に排水されるような措置を講じる。降雨時には、点検巡視の頻度を増やす。滑りやすい箇所については、歩行者マット等を敷設する。
- ④ 防災上必要と考えられる箇所では、状況を点検確認し対策を講じる。必要に応じて立入禁止や迂回等の措置を講じる。
- ⑤ 早めに適切な場所へ退避させる。適切な転倒防止措置を講じる。
- ⑥ 作業を再開する前には現場の安全点検を入念に実施し、異常箇所はただちに補修する。



早めの熱中症対策を!!

気温や、湿度の高い日が続きます。また、日中と夜間の気温差も激しいです。体調管理をしっかりと行って下さい。下記のHPを参考に早めの熱中症対策をお願いいたします。具体的な対策については、次号で紹介いたします。

熱中症についての情報はこちら

- ▷ 厚生労働省
熱中症関連情報 [施策紹介、熱中症予防リーフレット、熱中症診療ガイドラインなど]
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/
「健康のため水を飲もう」推進運動
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/nomou/>
職場における労働衛生対策 [熱中症予防対策]
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei02.html>
- ▷ 環境省
熱中症予防情報 [暑さ指数 (WBGT) 予報、熱中症環境保健マニュアル、熱中症予防リーフレットなど]
<http://www.wbgt.env.go.jp/>
- ▷ 気象庁
熱中症から身を守るために [気温の予測情報、天気予報など]
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>
異常天候早期警戒情報
<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>
- ▷ 消防庁
熱中症情報 [熱中症による救急搬送の状況など]
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

草刈時の事故に注意！！

草刈りの時期がやってきました。平成28年度は重点項目から草刈作業における飛び石事故を除外しましたが、既に数件の事故が発生している状況ですので、草刈時には特に注意を払って下さい。

下記に草刈時に発生した事故と対策を掲載しておりますので、作業時の参考にして下さい。

事故事例

事故概要

除草作業員と飛石防護板を保持する作業員が一緒に、肩掛式草刈機を用いて作業中にゴミを跳ね上げ、走行中の観光バスの窓ガラスを損傷した

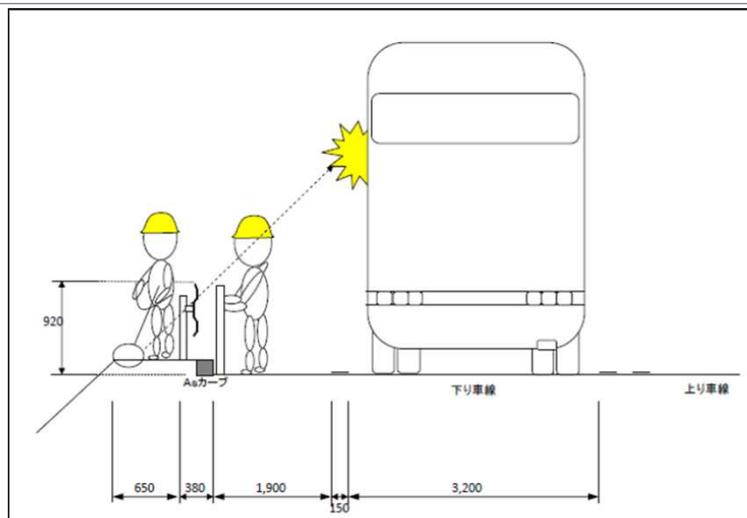
原因

除草作業開始前の塵芥処理が不十分で、防護板の大きさも不十分だった

事故対策

塵芥、浮石除去の時間を十分確保し、除去後に現場責任者が確認する

飛石防護板を大きいものにする

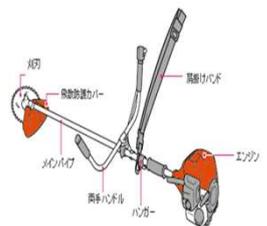


草刈時の注意点

- 作業範囲に障害物(ゴミ、ケーブル等)が無いか確認し、取り除けないものがある場合は、分かりやすい目印(ポール、リボン等)を倒れないようにしっかり固定設置し、周囲を手刈りする。(図-1)
- 機械の各部に緩み、がたつきが無いか点検し、飛散防止カバー、ハンドル、肩掛バンド等を必ず取り付け、緊急時の脱着方法を確認しておく。(図-2)
- 衣服は袖口を閉めた長袖シャツと長ズボンに加え、手袋、保護帽、フェイスガード、防護メガネ等、適切な服装で行う。また、現場の状況に合わせて防塵マスク、耳栓等をする。(図-3)



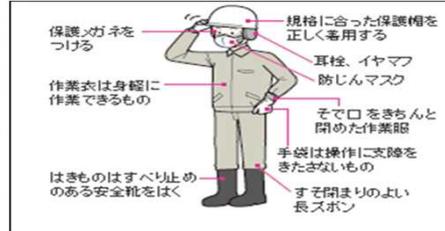
作業範囲内の清掃(図-1)



作業前の機械の点検(図-2)



このような状態では使用しない



作業時の服装(図-3)

肩掛式

- ◎ 半径5~10m程度に人がいないか確認する。
- ◎ 近づく際は必ず離れた位置で合図し、エンジンを停止したことを確認してから近づく。
- ◎ 斜面では、足下を固めて、側面に立ち、上面から下面に向けて平行に刈る。絶対に法面の上段から下方を向いては刈らない。
- ◎ 道路・民家等の近接箇所では、必ず防護板や飛散防止ネット等を配置して作業を行う。また車両、通行人が近づいたときは作業を中断する。

ハンドガイド式

ハンドガイド式草刈り機は前面にカバーがついているため、飛石は少ないと考えられていますが、H25年に1件、H26年に1件発生しています。これら2件については側面のカバーのない所から飛んだとみられます。

- ◎ ハンドガイド式による飛石の対策の例
 - ① 作業前の清掃で石を除去
 - ② カバーが無い部分にカバー取り付け
 - ③ 防護板や飛散防止ネット等を配置

